

## 専門医はつらいよ



旭川市医師会  
大橋耳鼻咽喉科医院

大橋 伸也

日本耳鼻咽喉科学会主催の専門医講習会が神戸で開催され参加した。擦った揉んだの新専門医制度であるが、日耳鼻学会は従前より専門医制度に軸足を置き、所属する会員はその資格取得に励み、また既得会員も差し当たり資格更新を当然の使命と確信している。

さて講習会であるが、過去2年連続して参加者は3,000人を超え、今年も初日の開会時に1,300人収容の会場が埋め尽くされる大盛況であった。そもそも耳鼻科の専門医数（≡現場の耳鼻科医数）は約8,500人である。ということは、今年も全国の耳鼻科医の3分の1がここに集まるのだ。つくづく日本人は真面目だと思う。（聖地巡礼でもあるまいし、この集団、この数、ちょっと不気味…）2日間の開催で共通講習、領域講習、実技講習と盛りだくさんの内容が組まれている。

まずは午前の共通講習「医療安全」「医療倫理」の2単位と、領域講習1単位を無難にこなした。午後は第2会場での領域講習に臨んだ。メインホールよりかなり狭いが、ここへも700人の同志が詰め掛けている。開始20分前というのにびっしりだ。空席がなく、前へ前へと押しやられた。会場の容積に対し、人と空気の密度がマッチせず何とも息苦しい。呼吸数が増してきた…。私は身長が180cm近くあり、備え付けの椅子はどこも窮屈だ。おまけに若い頃の無理が祟り、右足関節は遊離体の、左膝関節は半月板の手術歴があり、40代後半から股関節が緩み、亜脱の診断も受けている。正座はもちろん、窮屈な椅子もつらい。とにかく同志をかき分け、着席した。（うっ、まずい！ 私の膝が前の椅子の背に触れている…）

不安をよそに、講習は始まった。15分くらい経過しただろうか、なんだか内転筋が攣ってきたような気がする。臀筋群もビリビリ痺れているようだ。（もし足が攣ったら通路まで出てストレッチしなければ…。私の左には同志が数名、ただし左は会場中央にある通路だ。壁側の右へ進まなければ…。うっ、10数名の同志が座っている。狭い前後の座席間を小さく手刀を切りながら、同志一人一人に「すいません、すいません」と小声で連呼しながら通路に辿り着かなければならない。おまけにここは前から3列目だ。立ち上がれば700人の同志の目が注がれる。程なく講師も気付くだろう。呆れ顔だ。うっ、座長に睨まれた。気難しそうな御仁だ。胸ポケットには赤いチ

ーフが…。いや、あれはレッドカードだ。まずい！ 私は一発退場だ。途中退席では受講証が貰えない。どうしよう～）

その時、私の肩に隣の同志の肩が触れ、寝息が聞こえた。（はあ～寝るだと？ こいつはどこから来たか知らないが、私は昨日夕刻まで診療を務め、最終便で旭川を発ち、羽田のホテルで一泊し、今朝5時起きで一便に乗り込みようやくたどり着き、全身全霊を捧げて聴講しているというのに…。こんな人たちに負けるわけにはいかない。いや、こいつに受講証を渡してはいけない。そうだ、こいつは終始寝ていたと密告してやろう…）次の瞬間、同志は姿勢を正し私も我に返った。恥ずかしい…。ここは日本だ、私は日本人だ。それにしても人間は極限状態に置かれると何とも悍ましいことを考えるものか…。

そうこうしているうちに講習は終了し、私と700人の同志は指定の出口に向かった。係の方が一人一人に受講証を手渡しており、私は両手で拝受した。（ありがたい…）外に出ると、老紳士がお連れの同志と話していた。「堪え難きを堪え、忍び難きを忍び…もう限界です。専門医はこれでおしまい」「同感ですね」（同感！同感！思わず握手を求めようとした）

奮斗努力の甲斐があり、目的としていた共通講習受講証2枚、領域講習受講証3枚と補聴器実技講習受講証1枚を全てゲットし、専門医と呼ばれるのに相応しい豊かな教養を身に付けた。達成感からか気分は高揚し、身体もポカポカ温まり、足取りも軽やかに帰路に着く自分がいた。（新専門医制度、万セー！）

翌週、日本医師会主催の全国学校保健・学校医大会が三重県津市で開催され参加した。午前中は耳鼻咽喉科と眼科を含む5つの分科会があり、参加者にはそれぞれの学会から専門医の単位が与えられた。耳鼻咽喉科は0.5単位。ところが全く同じ条件の眼科は2単位であった。（外国人にも日本人にも分からない、この差って何ですか～？ 耳鼻科はもういい～、生まれ変わったら眼科医になってやる～！）

今日も涙の雨が落ちる。

